

都市と農山村をつなぐ「空と土プロジェクト」

「空と土プロジェクト」は、三菱地所グループが山梨県北杜市で活動を行うNPO法人「えがおつなげて」と連携し、都市と農山村がともに支え合う持続可能な社会の実現に向けて2008年度にスタートした活動です。「都市と農山村が、お互いに元気になる社会」をめざし、体験ツアーを通じた交流活動や、地域資源を活用したプロジェクトを進めています。

田植えや野菜収穫の体験ツアーを実施

「空と土プロジェクト」では、グループ社員やその家族、丸の内エリアの就業者、住宅事業のお客さまなどを対象とした体験ツアーを実施し、地域の方々との交流を図っています。2011年度は、これまで実施してきた三菱地所ホーム(株)のお客さま、三菱地所コミュニティ(株)が管理するマ

ンション居住者向けのツアーに加え、「三菱地所のレジデンスクラブ」の会員を対象としたツアーをスタートしました。「三菱地所のレジデンスクラブ」は、三菱地所グループのマンションの契約者・入居者を対象とした会員組織です(P16参照)。この活動がマンションのコミュニティ形成にも役立つことを願って、2012年度は4月に田植えのための棚田(※)の準備作業、5月に

は田植え体験ツアーを実施、8月には夏野菜収穫体験キャンプなどを実施しました。

※棚田：山麓や丘陵などの傾斜を利用した階段状の水田。土砂災害や洪水の防止をはじめ、雨水や農業用水が浸透することで地下水として再利用できる水資源の涵養、豊かな生態系の保全など、多様な役割を果たしています。

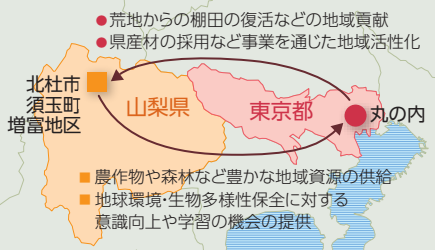


田植え体験ツアー



「都市と農山村が、お互いに元気になる社会」へ

「空と土プロジェクト」を通じたCSV(共通価値の創造)



県産材の利用拡大に向けて山梨県と連携

豊富な自然から生まれる木材・農作物などの地域資源と、三菱地所グループの事業との連携も推進しています。三菱地所ホームでは、森林資源の適正

利用、国内林業の持続的かつ健全な発展を図るため、トレーサビリティの明確な国産材の利用を進めており、「空と土プロジェクト」との連携を通じて山梨県産材の活用を検討してきました。そうした中、2010年9月の山梨県産材認証制度改正によって、県外で生産加工される製品にも「やまなし県産材」表示が可能になったことを受け、山梨県産材認証製品を実用化しました。2011年8月からは、山梨県産のカラマツの間伐材・小径木で製造されるFSC認証材「LVL」と山梨県認証材の「I型ジョイスト」を注文住宅の標準仕様として採用しています。

さらに同月、三菱地所(株)、三菱地所ホームおよびNPO法人「えがおつなげて」の三者は、山梨県との間で、山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定を締結しました。これは、山梨県の林業の持続的かつ健全な発展に向けて、



締結式の様子

協定締結者が緊密な連携と協働による普及・啓発活動を推進し、川上(生産地)から川下(供給・販売)までが連携して山梨県産材のブランド力を高め、広くその価値を発信することで、山梨県産材の利用拡大を図るものです。

地元の農作物を利用した 各種イベントも展開

食をテーマとした活動も展開しています。今年で3年目になる、山梨県の食材を使った料理を提供するフェア「おあんなって山梨」(主催:山梨県商工連合会)を2011年10月に新丸ビル7階「丸の内ハウス」で開催したほか、山

梨県のシェフと丸の内シェフズクラブのコラボレーション企画「美味しい山梨を創るプロジェクト」(同)にも協力しています。

また、三菱地所グループ社員が遊休農地を開墾して農薬・化学肥料を使わずに酒米を育てる「酒米づくりプロジェクト」を2010年から実施しています。2011年も酒米が見事に実り、山梨県内の蔵元「萬屋醸造店」で醸造された「純米酒『丸の内』」が3,800本完成。丸の内エリアのレストランなどで販売され、人気を博しています。

このような活動が評価され、「空と土プロジェクト」は、2012年3月、全国の

都市と農山漁村の共生に優れた取り組みを表彰する「第9回オーライ!ニッポン大賞」(主催:農林水産省)の審査委員長賞を受賞しました。

三菱地所グループでは、今後も地域資源と企業の経営資源を融合させながら新たな価値を生み出し、地域の活性化に貢献していきます。



純米酒「丸の内」



蔵元の酒蔵見学

ステークホルダーミーティング

事業活動を通じたCSR活動を推進する三菱地所グループの取り組みの中から、「空と土プロジェクト」における従来の活動および2012年度の活動の方向性を説明し、ステークホルダーの皆さまからご意見をいただきました。

開催日時・場所

2012年2月14日(火) 16:00~17:45 [東京21クラブ]会議室(東京都千代田区・新丸ビル10階)



社外参加メンバー (所属・役職は当時)



コメントの詳細はホームページ参照



NPO法人
農商工連携サポートセンター
代表理事

大塚 洋一郎氏

「空と土プロジェクト」は1年1年の広がりという点で花開いている。食をテーマとした活動や山梨県産材の活用など、会社の事業を通じた活動は面白く勉強になる。今後は都会の資源を活用した復興支援にも期待している。



一般社団法人
ロハス・ビジネス・
アライアンス(LBA)
共同代表

大和田 順子氏

山梨での経験を活かして、被災地(東北)での活動を行ってはどうか。市民参加型の農地や漁場の再生、沿岸部での生態系の再生や、山梨の事例である「現地と東京・丸の内のシェフとの交流」も良いのではないかと。



IIHOE
[人と組織と地球のための
国際研究所]
代表者

川北 秀人氏

食のプロジェクトはユニークであり、もっとアピールすべき。また、木材利用によるCO₂固定量、水源涵養機能を有する開墾面積、荒地開墾による生態系の変化といった活動成果をとりまとめ発信してほしい。



NPO法人
えがおつなげて
代表

曾根原 久司氏

プロジェクトの連携機関として活動をともにしてきたが、この4年間で社会の評価もずいぶん変わった。商品が実際に開発され、事業にリンクしてきたことが社会に対する影響力となって表れているのだと思う。



東京農業大学教授
地域環境科学部長
博士(農学)

宮林 成幸氏

国産材の利用は、日本の林業に貢献するだけでなく文化を育むことにもつながる。森林保全による地球温暖化対策や水源涵養機能としての意義も大きい。CSRとしての取り組みがCSV(共有価値の創造)につながっている。
※2月14日は欠席され後日コメントを掲載しました。

ご意見を受けて

三菱地所(株) CSR推進部長
(所属・役職は当時)
西貝 昇

ご意見を受けて、震災復興支援など、さまざまな分野への展開の可能性を再認識しました。今後も事業との連携を重視し、社会に対し、積極的な情報発信に努めたいと思います。

三菱地所グループは、企業市民として社会との調和を大切にしながら、三菱地所グループの特色を活かしたさまざまな活動を推進することで、より良い地域・社会づくりに貢献します。

基本的な考え方と実績

社会貢献活動基本方針

三菱地所グループでは、1994年に制定した社会貢献活動理念を、社会的課題の変化やグループ全体としての

取り組みの必要性などの観点から見直し、2008年4月に「三菱地所グループ社会貢献活動基本方針」を策定しました。

三菱地所グループ社会貢献活動基本方針

1 社会的課題の解決と自らの成長

良き企業市民として社会的課題の解決を目指し、活動を通して自らも成長をはかります。

2 三菱地所グループらしい活動の展開

事業領域の内外において、経営資源を生かした、三菱地所グループらしい特色ある社会貢献活動を展開します。

3 社会との連携

対等、信頼、対話を基本として、さまざまな団体と連携して、透明でフェアな活動に努めます。

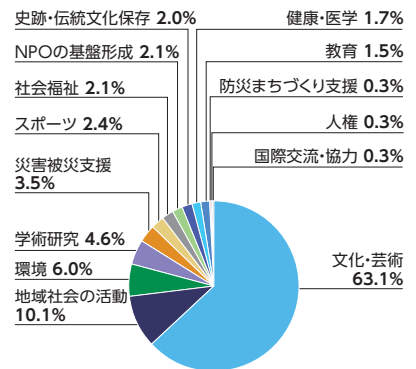
4 重点分野

「地域社会との共生」「文化・芸術支援」「環境保全」「社会福祉」を重点分野として取り組みます。

支出内訳

2011年度、三菱地所(株)単体の社会貢献活動支出は約1,578百万円で、経常利益の1.82%にあたります。その内訳は下図の通りです。

社会貢献活動実績(2011年度)



地域社会との共生

「食育丸の内」プロジェクト

三菱地所(株)は、350店舗以上のレストランが集積する東京・丸の内にて、「都市における食のあり方」について取り組む「食育丸の内」プロジェクトを、地域のレストランシェフらとともに推進しています。

具体的な活動として、学校法人 服部学園理事長の服部幸應氏を会長に迎え、丸の内のレストランオーナーシェフを中心に組織した「丸の内シェフズ

クラブ」を2009年に発足し、生産者と消費者、そしてレストランの三者のコミュニケーションを大切にした企画やスキームづくりに取り組んでいます。2011年度からは、丸の内らしい地域貢献として、地域との相互交流の中から魅力ある地域資源の活用を見直し、ともに考えるプロジェクトを積極的に行っています。山梨県では、地元を元気にしたいという意欲ある若手シェフと、丸の内のトップレベルのシェフたちとをマッチングさせ、共同で新郷

土料理を生み出しました。このノウハウは「Rebirth東北フードプロジェクト」(P35参照)の復興支援活動の中にも活かされています。今後も、丸の内から「食」の分野で日本をリードする活動を発信し続けていきます。



丸の内のシェフと山梨県の若手シェフによる共同メニューづくり

文化・芸術支援

第6回財団法人西洋美術振興財団賞「文化振興賞」を受賞

三菱地所(株)は、財団法人西洋美術振興財団より、第6回財団法人西洋美術振興財団賞「文化振興賞」を受賞しま

した。財団法人西洋美術振興財団賞は、2006年に創設され、過去2年間ににおける全国の西洋美術に関する展覧会の中から、西洋美術の理解と文化交

流の促進、また西洋美術研究発展に寄与のあった優れた活動に対し表彰するものです。

2011年4月6日～7月25日に三菱一号館美術館にて開催した「マネとモダ

ン・パリ」展をはじめ、「美術館とともに、学術的に優れた展覧会の実現に協力した団体」との評価をいただきました。

今後も、三菱一号館美術館を丸の内

エリアの文化交流発信の中核施設と位置づけ、ビジネス機能の深化、環境共生の推進やホスピタリティの充実と併せて、歴史・芸術・文化を発信する新たなまちづくりを進めていきます。



西洋美術振興財団賞 顕彰式の様子

環境保全

大手町・丸の内・有楽町 打ち水プロジェクト

大手町・丸の内・有楽町地区では、伝統的な生活の知恵「打ち水」でヒートアイランド現象の緩和をめざしたイベント「打ち水プロジェクト」を実施しました。三菱地所(株)が会長会社を務める「一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会」などで構成

される実行委員会が主催し、2011年は7月29日から8月17日までの期間に5会場で112団体、約2,600名の参加を得て、排水を再利用した「中水」を活用し、打ち水を行いました。

また、7月29日から8月31日までの期間には、毎夕、丸の内仲通りの路面店舗を中心に83店舗が参加する「打ち水week2011」も開催されました。

今後も、都市部特有のヒートアイランド現象緩和に向け、大手町・丸の内・有楽町エリアで、どなたでも参加いただける同プロジェクトを継続していきます。



打ち水プロジェクト

社会福祉

第10回キラキラと アートコンクール開催

三菱地所(株)では、障がいのある子どもたちの可能性を応援したいとの思いから、絵画コンクール「キラキラとアートコンクール」を2002年より毎年開催しています。

第1回は496点の応募作品でスタートし、第10回となる今回は、過去最多となる1,550点もの応募がありました。全応募作品の中から、1次審査・三菱地所グループ社員審査・本審査を経て、優秀作品50点を選出し、その原画展を横浜ランドマークプラザを皮切りに、全国8ヶ所の当社関連ビル・商業施設などで開催。そして、2月17日に、丸ビルホールで表彰式を行いました。また、専用Webサイトで全応募作品を公開しています。

WEB キラキラとアートコンクール
<http://www.kira-art.jp>

第10回キラキラとアートコンクール概要

作品募集(7~9月)
応募総数1,550点

審査会(10月)
三菱地所グループ社員審査会には4日間で518名が参加

原画展開催(10~2月)
優秀作品50点を全国8会場(札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡)で展示

表彰式(2月17日)
優秀賞受賞者、保護者、学校関係者などをご招待して丸ビルホールにて開催



表彰式の様子

作者へのメッセージ

●心の中にある世界を表現するエネルギーが伝わってきました。しばらく目が離せませんでした。一生懸命さが絵全体からにじみ出ていて感動しました。

●好きなものが楽しく素直に描かれていて、とっても元気になれる絵です。

●とてもやわらかい気持ちにさせていただきました。優しさがあふれていますね。

※原画展会場では、作者へのメッセージをお寄せいただき、メッセージは作者本人にお渡ししています。

保護者からのメッセージ

●子どもたちに自信を持たせる良い機会になりました。どのような障がいのある子どもも参加し、自己表現のできる素晴らしいコンクールであり続けてほしい。

WEB ボランティア支援制度はホームページに掲載